

2020年5月17日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

復活節第6主日 メッセージ

「ぶどうの枝は縦にではなく横に伸びていく」

福音書 ヨハネによる福音書15章1節～8節

主の平和が皆さんと共にありますように。

聖ルカ教会や八戸幼稚園のお庭に素敵なお花が咲く花壇や聖書に出てくる木や果実が実る場所があれば素敵だなと思い、聖ルカ教会でも皆さんに呼びかけて数年前から「チャーチガーデン」を信徒の有志の方を中心に手入れをしてくださっています。また、八戸幼稚園のお庭も先生方の日頃のお働きのおかげできちんと整備されて今年もたくさんの綺麗なお花が咲いています。

そういう私自身は、「口だけ番長」で、いつも信徒の皆さんや先生方にお任せしてしまって申し訳なく思っています。それでも梅の木と幼稚園のぶどうの木はせめて頑張ってお手入れをしていこうと思っています。小梅の木は毎年たくさんの実を実らせるのですが、実の収穫と同じくらいそれ以上の虫が木にびっしりとはりつくので昨年、思い切って枝の剪定をしました。

そのために今年は昨年ほどは実がならないと思いますが、若枝が伸びて花が咲き、緑の葉っぱが茂り、小梅がちらほら顔をだしています。もうすぐ収穫出来ると思います。今年も小さい梅干しと梅ジュースを作る予定です。

ぶどうの木は園庭の砂場の上にあります。去年までは中山司祭さんのご指導を頂き、また先生方の手入れによっておいしいぶどうをみんなで頂く事が出来ました。ぶどうの手入れは結構大変です。まずは、冬の寒い内に枝の剪定作業を行います。枝分かれしている枝の花芽を2つ残して、残りはすべて剪定します。ですからぶどうの枝は丸裸になってしまいます。こんなに切って大丈夫なのかなと思うくらい切っていきます。

そんな心配をよそにぶどうの枝は、現在葉っぱを茂らせ順調に成長しています。これから袋がけなどの作業がありますが秋の収穫に向けて手入れをしながら収穫を楽しみにしたいと思います。

ぶどうの枝は横に伸びていきます。聖書に出てくる「いちじく桑の木」も同様に縦ではなく、横に枝を伸ばします。あのザアカイが登った木もイチジク桑で背の高い木ではなく、横に枝を広げていたから背の低いザアカイでも登れたのだと思います。

ぶどうの木、イチジク桑の木も縦ではなく、横に枝を伸ばしていく・・・

これを神様と人間の関係に置き換えてみるとある事に私は気づきました。人間は神様によって造られたものでありながら、それを忘れていつも自分の力によって上へ上へと伸びようとしています。出世欲などもまさにそうです。そしてその中で時に有頂天になることもあります。しかし、社会の荒波の厳しさで疲れ果て傷ついて、不安そして希望を見いだせない時の方が多いのではないのでしょうか。

そんな時にぶどうの枝は縦に伸びず横に延びていく、つまり高さを求めずに横に伸びていく、これでもかというぐらいに短く剪定した枝が上に向かってではなく、横へ横へあちらこちらにしぶとく枝を伸ばしていています。それは日に日に長くなっていきます。横のつながり、つまり人と人のつながりを感じます。人を蹴落として高く高く伸びていく生き方では見えなかった真の生き方を示しているような思いがします。

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。」(ヨハネによる福音書15章1～2節)

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネによる福音書15章5節)

今週の福音書は、「ぶどうの木のたとえ」です。イエス様はまことのぶどうの木で、この世界の創造者である神様はぶどうの木の栽培者です。そして、わたしたちはぶどうの枝です。

「わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる」
怖い言葉に感じませんか。この言葉をどう受け止めたら良いのでしょうか。敬虔なクリスチャンでなければ、優等生なクリスチャンでなければ、結局イエス様に見捨てられてしまうのでしょうか。イエス様に喜ばれる立派なクリスチャンになりましょうと受け止めてしまいそうな言葉です。どう頑張ってもそれは私たちには無理です。

自分の力で収穫、結果を求めるのではなく、大切なことは「留まる」ことです。イエス様のもとに留まり続けるということです。イエス様は私たちが離れていったとしてもいつでも手を差しのばし、待っておられる、私たちの中に留まってくださっておられるお方です。むしろ、いつも離れていくのは私たちの方です。そんな私たちにイエス様は語りかけているのではないのでしょうか。

「私を離れては駄目です。あなたがたはわたしを離れては何も出来ない。だからとにかく私を離れず留まっていなさい」と。

欲深く、上へ上へ、高さを求めて神さまのもとを離れていこうとする私たちに対して、ぶどうの枝のようにしぶとく横へ横へ枝を広げていきなさい。その先に神様は豊かな実りを私たちに与えてくださるのではないのでしょうか。

今年も幼稚園のぶどうの枝の成長を見守りながらイエス様につながりつづけていきたいと思えます。